

中核区域

将来へ向けてアイヌ文化の継承及びアイヌ文化の創造発展につなげるための拠点となるよう、中核区域に「国立のアイヌ文化博物館（仮称）」と「国立の民族共生公園（仮称）」を整備。

国立の民族共生公園

○体験交流施設等



慰霊施設

アイヌの人々による尊厳ある慰霊の実現に向けて、ポロト湖の東側の太平洋を望む高台に整備。

墓所となる建物・慰霊行事施設
(イメージ)



関連区域

中核区域と周辺の関連区域が一体となり、世代を超えてアイヌ文化を体験できる「フィールドミュージアム」を構成。

【コンセプト】

海・山・川など豊かな自然を活かして、文化
伝承・体験交流活動を実施する地域

周辺の
関連区域

中核
区域

中核区域と連携して、
文化伝承活動等を実施する地域
(平取、阿寒等)

広域
関連
区域

【周辺の関連区域／ポロト湖周辺図】



中核区域の整備イメージ

- 中核区域は、「国立のアイヌ文化博物館(仮称)基本計画」(平成27年7月)及び「国立の民族共生公園(仮称)基本計画」(平成28年4月)に基づき整備。
- 各機能・施設の具体化に当たっては、多様な人々・幅広い世代が、アイヌ文化に親しみ、快適に過ごせるよう検討を進める。
※特に、子供たちがアイヌ文化に親しみやすい環境を博物館と連携を図り、フィールドミュージアムの区域を通じて整備する。
- 中核区域を核とする象徴空間全体で「年間100万人」の受入体制を確立する。

国立の民族共生公園

- 500～600名程度を収容できる体験交流ホールを新設。
- 伝統的の家屋の屋外展示のほか工芸や生業などの様々なアイヌ文化を体験できる施設を整備。

国立のアイヌ文化博物館

- 展示スペースの見直し・展示内容の充実、北海道内・国内外の博物館との連携等の工夫を検討。



アイヌ古式舞踊



ムックリ(演奏イメージ)



野草園(有用植物)



イクパスイ(捧酒箸)

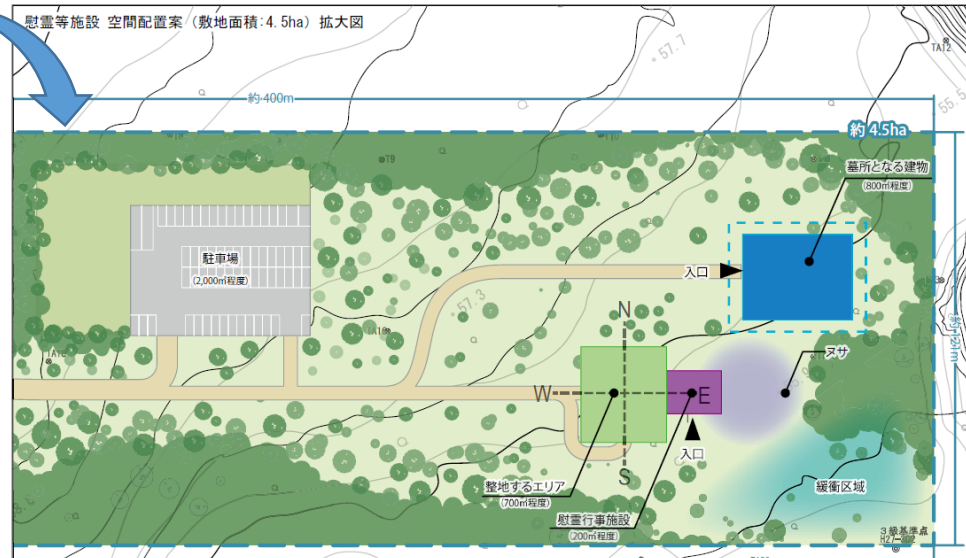
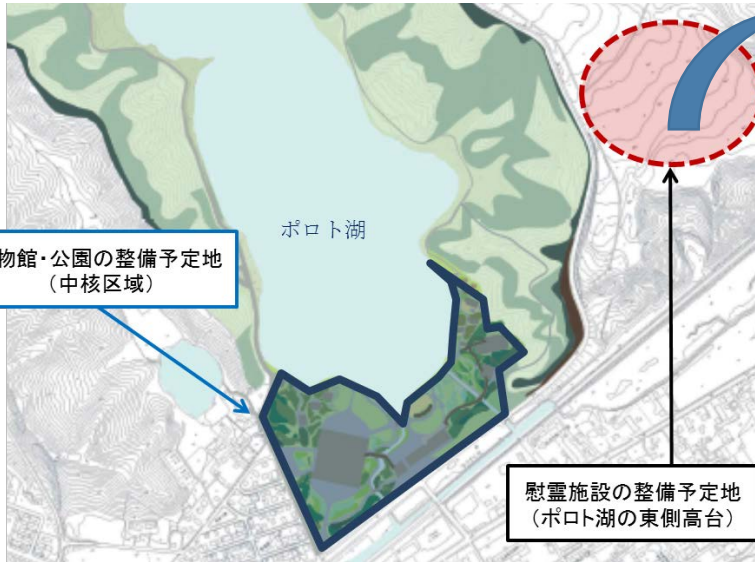


ポロト湖畔とアイヌの伝統的の家屋



慰霊施設と遺骨の集約

- 整備予定地は、ポロト湖の東側の太平洋を望む高台とする。
- 主要施設:「墓所」となる建物、慰霊行事を行うための施設、モニュメント、前庭(広場)等
- 整備時期は、期間短縮等の措置を講じることにより、平成31年度中を目指す。
- 今後、埋蔵文化財が出土した場合には、できる限り早期の完成を目指しつつ、文化財保護を慎重に行うものとする。



墓所となる建物・慰霊行事施設(イメージ)



モニュメント(イメージ)



イチャルパ・シンヌラツパ (慰霊儀式イメージ)

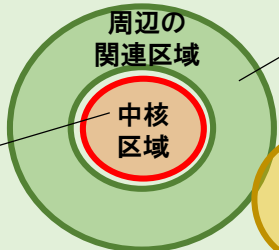


関連区域と一体となった「フィールドミュージアム」としての象徴空間

- 象徴空間は、中核区域と周辺の関連区域が一体となって、《フィールドミュージアム》を構成。

【コンセプト】

博物館、公園を中心に、
アイヌ文化を学び体験
する地域



海・山・川など豊かな自然を
活かして、文化伝承・体験
交流活動を実施する地域

中核区域と連携し
て、文化伝承活動
等を実施する地域
(平取、阿寒等)

周辺の関連区域／ポロト湖周辺図



有用植物の栽培(イメージ)



チセの復元(イメージ)

この他、森野地区等で自然素材栽培等を実施。

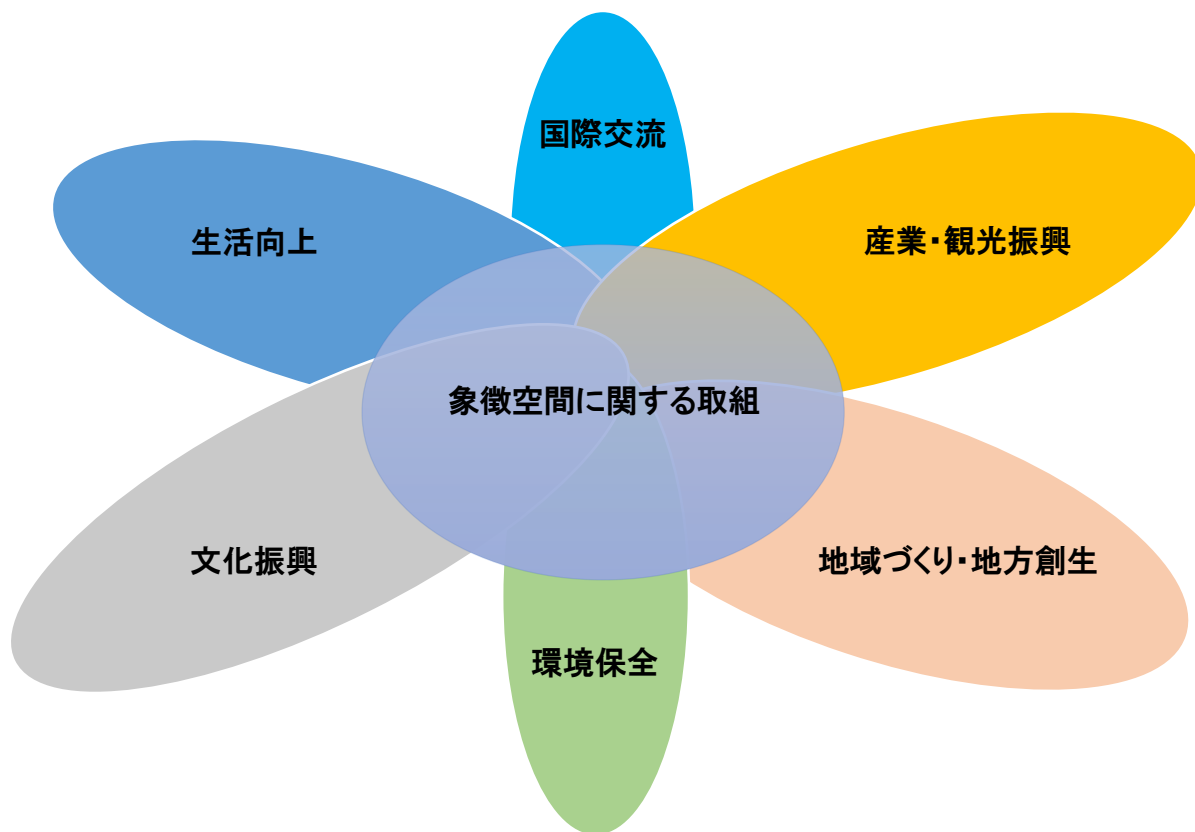


アイヌ文化復興に向けた全国的なネットワークの構築

- 内閣官房アイヌ総合政策室が窓口となり、狭義の文化復興(アイヌに特化した施策)にとどまらず、産業復興、観光復興、地方創生など、各省庁・自治体が有するプログラム等も戦略的に活用して、各地域の幅広いアイヌ文化復興を推進するための枠組みを構築。

※広域連携のモデルケースとして、平取町において鶴川・沙流川流域圏におけるアイヌの伝統的工芸品産業の復興と連携した広域DMOの構築を図る。

アイヌ政策の中での〔扇の要〕としての位置付け



活用可能な施策例

【産業・観光復興】

- 伝統的工芸品産業支援補助金(経済産業省)
- 広域観光周遊ルート形成促進事業(国土交通省)
- 地域資源を活用した観光地魅力創造事業(国土交通省)

【地域づくり・地方創生】

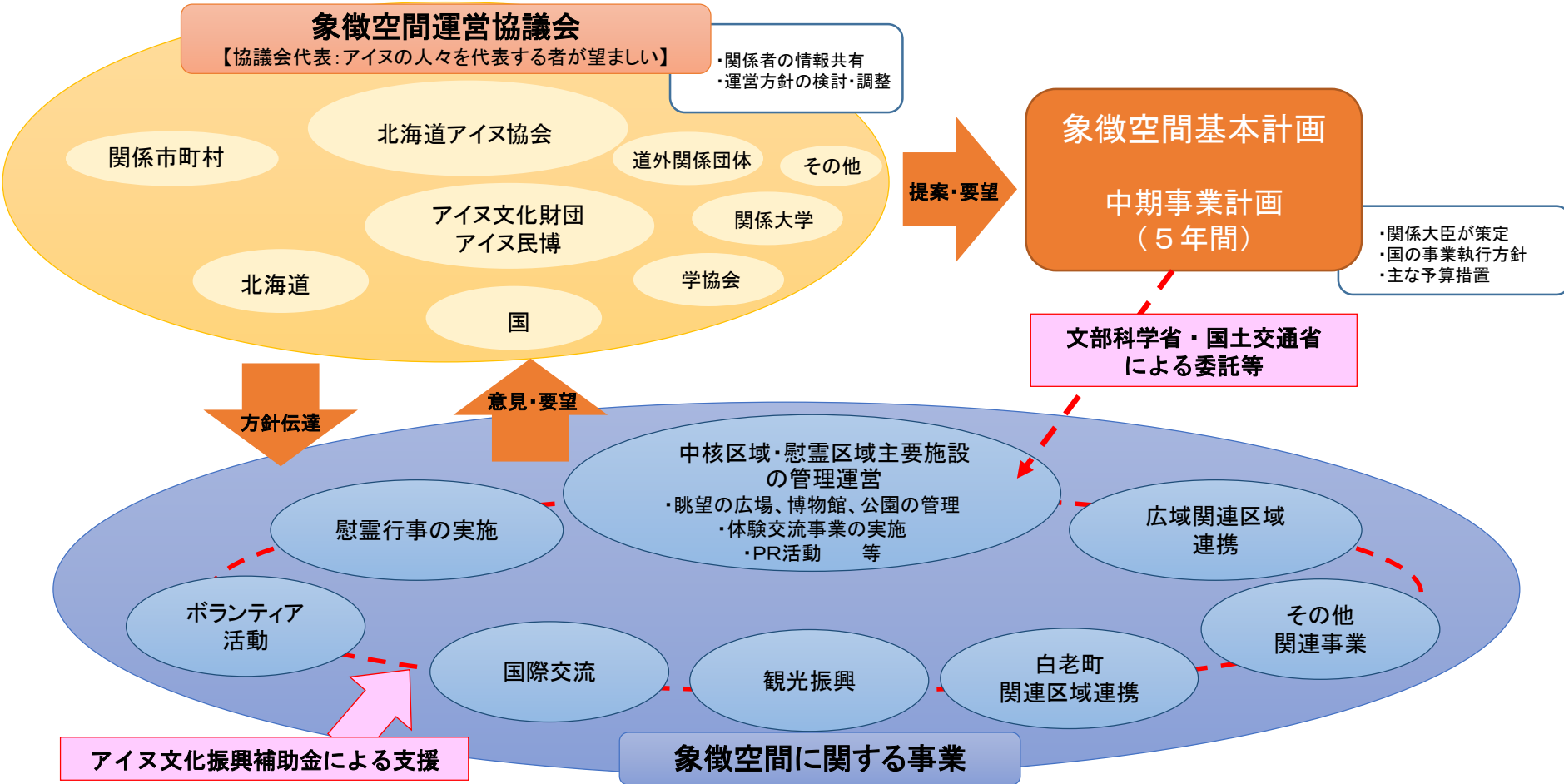
- 地方創生加速化交付金(内閣府)

【環境保全】

- 森林認証制度による持続可能な森林経営支援(民間認証制度)

象徴空間の管理運営について

〔閣議決定及び第7回アイヌ政策推進会議報告事項を基にしたイメージ図〕



「アイヌ文化復興」を実現するための来場者の考え方

区分	目標とする来場者数	(参考)政策推進作業部会報告
アイヌの人々	おおよそ 延べ数万人	—
訪日外国人旅行者	おおよそ 延べ40～60万人	20万人
国内旅行者	おおよそ 延べ35～50万人	25万人 (道内18万人、道外7万人)
修学旅行生	おおよそ 延べ7万人	7万人
目標とする来場者数	おおよそ 延べ100万人	おおよそ 50万人

○アイヌの人々

○訪日外国人旅行者

「明日の日本を支える観光ビジョンー世界が訪れたい日本へー」(平成28年3月30日 明日の日本を支える観光ビジョン構想会議決定)
 ・2020年 訪日外国人旅行者数 4,000万人(参考:2015年の約2倍)

○国内旅行者(修学旅行生を除く)

「北海道観光のくにづくり行動計画(平成25年度～平成29年度)」(平成25年北海道策定)
 ・平成29年度 観光入込客数 6,600万人 (参考:平成26年度実績(5,223万人)比 1.26倍)

○修学旅行生

・象徴空間の有する機能は、修学旅行において学校側が重点を置くテーマである「歴史学習」や「ものづくり体験」といった分野をカバー

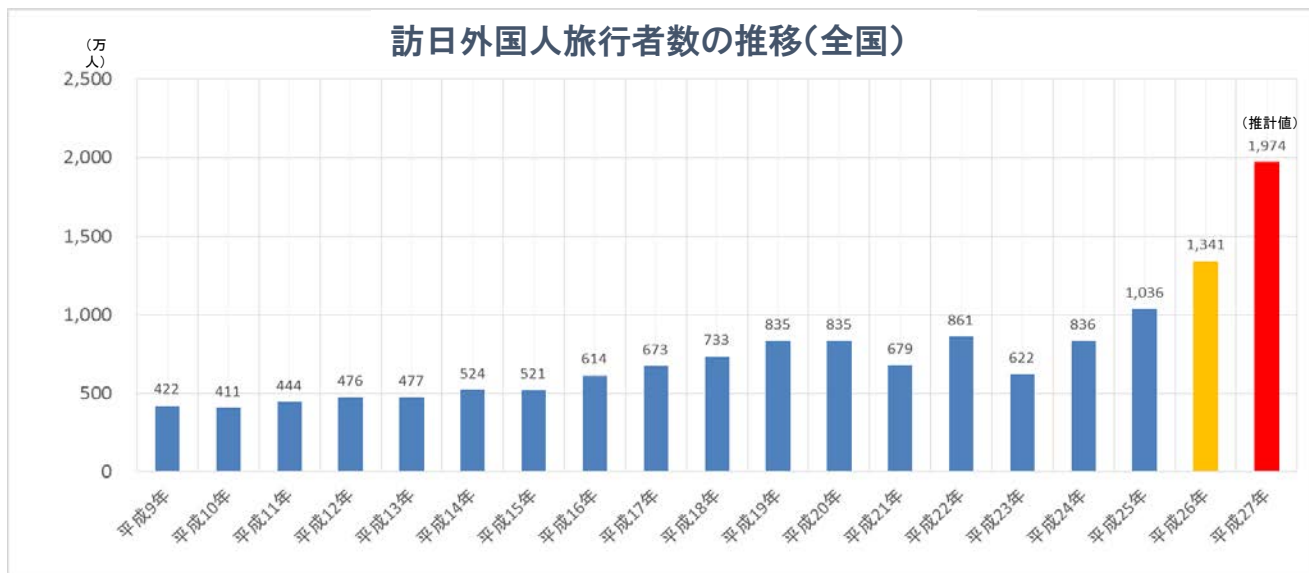
○その他想定される要素

・行政機関等の研修、海外の行政機関等からの視察、地域プロジェクトとの連携(白老牛肉まつり(年間5万人)等)等

【参考】アイヌ民族博物館の来場者の状況

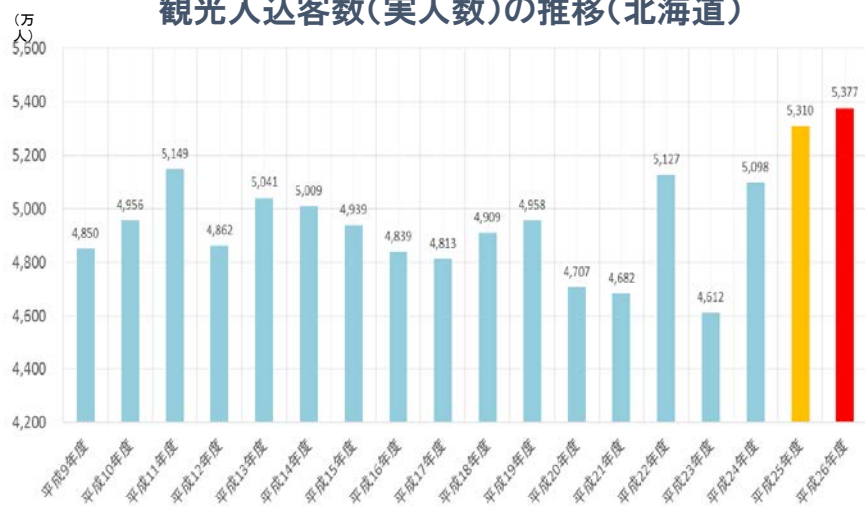
	訪日外国人旅行者	国内旅行者 (団体大人)	国内旅行者 (個人)	修学旅行生	計
平成3年度	0.8万人	58.9万人	18.5万人	9.0万人	87.2万人
平成26年度	7.0万人	2.3万人	4.4万人	5.2万人	18.9万人

(参考) 我が国及び北海道の観光客の入込状況



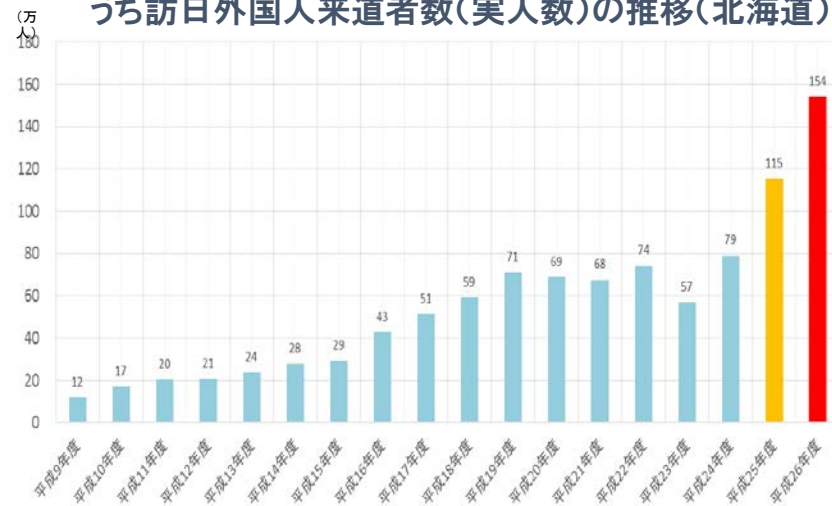
日本政府観光局(JNTO)資料をもとに作成

観光入込客数(実人数)の推移(北海道)



北海道経済部観光局「観光入込客数調査報告書」をもとに作成

うち訪日外国人来道者数(実人数)の推移(北海道)



北海道経済部観光局「観光入込客数調査報告書」をもとに作成